

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 特 許 公 報(B2)

(11) 特許番号

特許第6138929号
(P6138929)

(45) 発行日 平成29年5月31日(2017.5.31)

(24) 登録日 平成29年5月12日(2017.5.12)

(51) Int.Cl.

F 1

A 4 7 B 88/90 (2017.01)

A 4 7 B 88/00

B

請求項の数 15 (全 9 頁)

(21) 出願番号	特願2015-516373 (P2015-516373)	(73) 特許権者	597140501
(86) (22) 出願日	平成25年5月24日(2013.5.24)		ユリウス ブルム ゲー エム ベー ハー
(65) 公表番号	特表2015-523122 (P2015-523122A)		ー
(43) 公表日	平成27年8月13日(2015.8.13)		オーストリア国 ホッチスト A-697
(86) 国際出願番号	PCT/AT2013/000091		3 インダストリーストラッセ 1 番地
(87) 国際公開番号	W02013/185154	(74) 代理人	110000659
(87) 国際公開日	平成25年12月19日(2013.12.19)		特許業務法人広江アソシエイツ特許事務所
審査請求日	平成27年2月6日(2015.2.6)	(72) 発明者	ヘメール, ユルゲン
(31) 優先権主張番号	A673/2012		オーストリア国 A-6890 ルステナ
(32) 優先日	平成24年6月12日(2012.6.12)		ウ, マリア テレジエンストラッセ 32
(33) 優先権主張国	オーストリア(AT)		-13
		審査官	蔵野 いづみ
		最終頁に続く	

(54) 【発明の名称】 引出しレール

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項 1】

前方部(101)を備えた引出し(100)用のレール(1)であって、
レールストラット(2)と、

前記レール(1)を前記前方部(101)に固定するための、前記レールストラット(2)の端部(4)におけるパネル固定装置(3)と、を含んでおり、前記パネル固定装置(3)は、前記レールストラット(2)に少なくとも部分的に設置されており、

前記パネル固定装置(3)は、該パネル固定装置(3)を、その長さが変化しない前記レールストラット(2)に対して少なくとも二つの異なる位置(5、6)にて固定させる位置決め装置(10)を有しており、

前記パネル固定装置(3)は、固定要素(25)を、前記レール(1)を前記引出し(100)の前記前方部(101)に固定させるために有しており、

前記パネル固定装置(3)の前記固定要素(25)は、
前記少なくとも二つの異なる位置(5、6)の一方にて、前記レールストラット(2)の縦長を越えて突出しており、
前記少なくとも二つの異なる位置(5、6)の他方にて、少なくとも部分的に又は完全に前記レールストラット(2)内に陥没していることを特徴とするレール(1)。

【請求項 2】

前記少なくとも二つの異なる位置(5、6)は、互いに前記レール(1)の縦方向において離れていることを特徴とする請求項1記載のレール(1)。

10

20

【請求項 3】

前記レールストラット(2)が、前記少なくとも二つの異なる位置(5、6)にてそれぞれ凹部(7、8)を有しており、前記パネル固定装置(3)は、前記凹部(7、8)のいずれか一方に選択的に固定できることを特徴とする請求項1または2記載のレール(1)。

【請求項 4】

前記固定要素(25)は、合わせ釘状のスリーブの形態であることを特徴とする請求項1から3のいずれかに記載のレール(1)。

【請求項 5】

前記パネル固定装置(3)は、該パネル固定装置(3)を、前記前方部(101)に固定して接続させるクランプ装置(20)を有していることを特徴とする請求項1から4のいずれかに記載のレール(1)。

10

【請求項 6】

前記クランプ装置(20)は、前記位置決め装置(10)の制限爪(11)に対して支持されていることを特徴とする請求項5記載のレール(1)。

【請求項 7】

前記クランプ装置(20)は、その端部(21)で、前記位置決め装置(10)の制限爪(11)に対して支持されていることを特徴とする請求項5記載のレール(1)。

【請求項 8】

前記位置決め装置(10)は弾性ラッチ突出部(12)を有しており、前記レールストラット(2)は前記弾性ラッチ突出部(12)に対応する少なくとも二つの凹部(7、8)を有しており、
前記パネル固定装置(3)は、前記少なくとも二つの異なる位置(5、6)で、前記レールストラット(2)内に固定されることを特徴とする請求項1から7のいずれかに記載のレール(1)。

20

【請求項 9】

前記レールストラット(2)内の前記凹部(7、8)は、前記レールストラット(2)の開口部の形態であることを特徴とする請求項3記載のレール(1)。

【請求項 10】

前記パネル固定装置(3)は、前記位置決め装置(10)内に前記クランプ装置(20)をラッチ留めするためのラッチ装置(30)を有していることを特徴とする請求項5に記載のレール(1)。

30

【請求項 11】

前記ラッチ装置(30)は、前記クランプ装置(20)の突起部(22)に対応する少なくとも一つのバネ舌部(31)を有していることを特徴とする請求項10記載のレール(1)。

【請求項 12】

前記位置決め装置(10)は、一体型に製造されていることを特徴とする請求項1から11のいずれかに記載のレール(1)。

【請求項 13】

前記位置決め装置(10)は、前記レールストラット(2)内に押し込むことができるスリーブ部材(23)の形態であることを特徴とする請求項1から12のいずれかに記載のレール(1)。

40

【請求項 14】

請求項1から13のいずれかに記載のレール(1)を少なくとも一つ有する引出し(100)。

【請求項 15】

請求項14記載の引出し(100)を少なくとも一つと、家具枠体(102)とを有する家具(110)。

【発明の詳細な説明】

50

【技術分野】**【0001】**

本発明は、請求項1記載の分類部分の特徴を有する前方パネルを備えた引出し用のレー
ルと、少なくとも一本のそのようなレールを有する引出しと、家具枠体および少なくとも
一体のそのような引出しを含んだ家具とに関する。

【背景技術】**【0002】**

上述のような一般的なレールは、引出しの安定性を向上させるとともに、それらのレー
ルは引出し内に配置された物品を引出しから脱落させないように作用している。

【0003】

この点において、そのようなレールは、前方引出式の引出しの場合に利用されており、
さらに内部引出式引出しの場合にも利用されている。

10

【発明の概要】**【発明が解決しようとする課題】****【0004】**

本発明の目的は、前方パネルを備えた引出し用の従来技術に勝るレールと、そのような
レールを有する引出しと、少なくとも一体のそのような引出しを有する家具とを提供する
ことである。

【課題を解決するための手段】**【0005】**

この目的は請求項1記載の特徴を有するレールと、請求項14記載のそのようなレー
ルを有する引出しと、家具枠体およびそのような引出しを少なくとも一体有する家具とによ
って達成される。本発明の有利な実施態様は従属請求項に定義されている。

20

【0006】

パネル固定装置が、パネル固定装置を、その長さが変化しないレールストラットに対し
て少なくとも二つの異なる位置にて固定することができる位置決め装置を有するという事
実は、一本の同じレールを異なる長さの二つの引出しに利用できることを意味する。これ
は、まず、一般的に異なる構造長の内部引出式引出しと前方引出式引出しが利用されると
きに特に有利であり、レールストラットに対するパネル固定装置の二つの異なる位置のた
めに、一本の同じレールに両方のタイプの引出しを装着することが可能となる。これは、
二つの異なる引出しのための二つの異なるレールストラットを製造する必要がないため、
製造コストを節約する。

30

【0007】

特許保護は、説明している実施態様のレールを少なくとも一本含んだ引出しにも請求さ
れる。

【0008】

特に、特許保護は、家具枠体と説明している実施態様の引出しを少なくとも一つ有する
家具にも請求される。

【0009】

本発明のさらなる詳細と利点は、図面に図示された実施例に関連した詳細な説明によっ
て以下でさらに詳説されている。

40

【図面の簡単な説明】**【0010】**

【図1】家具枠体と、その内部に配置された引出しとを含んだ家具の斜視図である。

【図2】前方引出式引出しの形態の引出しの斜視図である。

【図3】内部引出式引出しの形態の引出しの斜視図である。

【図4】レールに関する断面図を含んだ前方引出式引出しの形態の引出しの斜視図である
。

【図5】図4の詳細図である。

50

【図 6】 レールに関する断面図を含んだ内部引出式引出しの形態の引出しの斜視図である。

【図 7】 図 6 の詳細図である。

【図 8】 レールの分解斜視図である。

【図 9】 図 8 の詳細図である。

【発明を実施するための形態】

【 0 0 1 1 】

図 1 は、家具 1 1 0 の斜視図である。家具 1 1 0 は、この場合には、家具枠体 1 0 2 と複数の引出し 1 0 0 とを有している。引出し 1 0 0 は前方部 1 0 1 を有している。この点において、前方部 1 0 1 は引出し 1 0 0 の壁部であり、さらに詳細には、家具 1 1 0 とその引出し 1 0 0 のユーザ側に対応した壁部である。この実施例では、前方部 1 0 1 は前方パネル 1 0 7 の形態であり、すなわち引出し 1 0 0 は前方引出式引出しの形態である。対応するレール 1 は、側壁 1 0 3 と 1 0 4 の上方に配置されている。

10

【 0 0 1 2 】

図 2 は、前方引出式引出しの形態である引出し 1 0 0 を示している。この引出し 1 0 0 は、前方パネル 1 0 7 の形態の前方部 1 0 1 を有しており、それと反対側は後壁 1 0 5 である。引出し 1 0 0 の左右には、側壁 1 0 3 と 1 0 4 とが配置されており、それらの上方には後壁 1 0 5 から前方部 1 0 1 に到達するそれぞれのレール 1 が配置されている。引出し底部 1 0 6 は、引出し 1 0 0 の下側に配置されている。

20

【 0 0 1 3 】

レール 1 は、この点において、引出し 1 0 0 の安定性を向上させ、引出し 1 0 0 内に収納されている物品が引出し 1 0 0 から落下しないようにしている。

【 0 0 1 4 】

図 3 は、図 2 の引出し 1 0 0 と類似する形態である引出し 1 0 0 の斜視図である。図 3 の引出し 1 0 0 における唯一の違いは、それが内部引出式引出しであり、すなわちその前方部 1 0 1 は前方壁部 1 0 8 の形態であり、引出し 1 0 0 が閉じた状態では、家具の内部に完全に配置されることである。通常、その場合、引出し 1 0 0 は閉じた状態では、別な引出しの別な前方パネル（または扉）によって隠される。

【 0 0 1 5 】

この結果、内部引出式引出しの形態、または前方引出式引出しの形態のいずれかである引出し 1 0 0 のために、レール 1 に関して異なる全体長が存在する。しかしながら、図 2 および図 3 のこれら二つの引出し 1 0 0 の場合には、レールストラット 2 はそれぞれ同じ長さである（この点における解説に関しては図 4 と図 7 を参照）。

30

【 0 0 1 6 】

図 4 と図 5 は、前方引出式引出しの形態、すなわち前方部 1 0 1 が前方パネル 1 0 7 の形態である引出し 1 0 0 のレール 1 の斜視図である。この場合には、前方パネル 1 0 7 は通常は木製であり、レール 1 のパネル固定装置 3 は、この構造では（組み立てが実行された後）ダウエルで（合わせ釘で接合するので）前方部 1 0 1 内に突出する。さらに、パネル固定装置 3 は、レールストラット（レール支柱）2 内に部分的に挿入される。さらに、パネル固定装置 3 は位置決め装置 1 0 を有しており、それによって、その長さが変化しないレールストラット（レール支柱）2 に対して少なくとも二つの異なる位置 5 と 6 にて固定されることができる。この結果、レール 1 の有効な全体長は、位置 5 にて固定された時に、パネル固定装置 3 がレールストラット 2 を越えて突出することによって変化できるが、位置決め装置 1 0 が位置 6 にて固定されると、パネル固定装置 3 はレールストラット 2 を越えて突出せず、それによってレール 1 の有効な全体長は短縮される。よって、一本の同じレール 1 を、図 4 と図 5 に示す前方引出式引出しに対しても、図 6 と図 7 に示す内部引出式引出しに対しても利用できる。

40

【 0 0 1 7 】

この場合には、それら少なくとも二つの異なる位置 5 と 6 は互いにレール 1 の縦方向において離れている。

50

【 0 0 1 8 】

図 5 と 6 ではさらに、レールストラット 1 が、少なくとも二つの異なる位置 5 と 6 にてそれぞれの凹部 7 と 8 を有しており、パネル固定装置 3 は、凹部 7、8 にて選択的に固定できることが明示されている。

【 0 0 1 9 】

さらに、図 5 と図 7 では、パネル固定装置 3 は（好適には合わせ釘状のスリーブ（dowel sleeve）の形態である）固定要素 2 5 をレール 1 の引出し 1 0 0 の前方部 1 0 1 への固定のために有しており、パネル固定装置 3 の固定要素 2 5 は、それら少なくとも二つの異なる位置 5 と 6 の一方にて、レールストラット 2 の縦長を越えて突出しており（図 5 参照）、それら少なくとも二つの異なる位置 5 と 6 の他方にて、実質的に完全にレールストラット 2 内に陥没している（図 7 参照）。

10

【 0 0 2 0 】

さらに、この実施例ではパネル固定装置 3 は、この好適実施例では、パネル固定装置 3 を、スプレッド接続（伸縮して長さ調節可能な接続：「spreader connection」）によって前方部 1 0 1 に固定式に接続させるクランプ装置 2 0 を有している。

【 0 0 2 1 】

この点において、この好適実施例では、クランプ装置 2 0 はその端部 2 1 で位置決め装置 1 0 の迫台 1 1 に対して支持されている。

【 0 0 2 2 】

位置決め装置 1 0 は、レールストラット 2 の二つの凹部 7、8 に対応できる弾性ラッチ突出部（弾性を有する外れ止め突出部）1 2 を有しており、それによってレールストラット 2 内におけるパネル固定装置 3 の相対的な位置を確立することが可能である。したがって、このようにして、レールストラット内におけるパネル固定装置 3 のその少なくとも二つの異なる位置 5 と 6 は、位置決め装置 1 0 の弾性ラッチ突出部 1 2 によって固定される。

20

【 0 0 2 3 】

さらにこの実施例では、パネル固定装置 3 は、位置決め装置 1 0 内のクランプ装置 2 0 をラッチ留めするためのラッチ装置 3 0 を有している。この目的のため、ラッチ装置 3 0 は、クランプ装置 2 0 の肢部 2 2 に対応するバネ舌部 3 1 を有している。

【 0 0 2 4 】

この好適実施例では、位置決め装置 1 0 は一体型で、射出成型によって製造されている。さらに、位置決め装置 1 0 はスリーブ部材 1 3 の形態であり、レールストラット 2 内へ完全に押し込まれることができ、レール 1 の美観的な魅力に貢献する（図 9 参照）。

30

【 0 0 2 5 】

図 6 と図 7 は、前方引出式引出しの形態ではなく、内部引出式引出しの形態である引出し 1 0 0 の斜視図である。したがって、引出し 1 0 0 は前方パネルを有していないが、前方部 1 0 1 として前壁部 1 0 8 または前方レール 1 0 8 を有している。通常の場合には、家具において、別な引出しの別な前方パネルが引出し 1 0 0 の前方に配置されているため、または扉を引出し 1 0 0 の前方で閉じることでもあるため、内部引出式引出しの場合には引出し 1 0 0 の全長は、前方引出式引出しの場合よりも短い。前方引出式および内部引出式の両方に同じレール 1 を利用できるようにするため、パネル固定装置 3 は、レールストラット 2 内の異なる位置に配置されるように設計されているので、レール 1 の全長は、この場合にはレールストラット 2 自体の長さを変化させなくても変化させることができる。

40

【 0 0 2 6 】

この内部引出式の実施例の場合には、位置決め装置 1 0 はレールストラット 2 のさらに内側の位置 6 に配置されており、このことによってパネル固定装置 3 はレールストラット 2 を越えては突出せず、従って、レール 1 の前方部 1 0 1 への固定はレールストラット 2 内で実行でき、よってレール 1 の全長は、図 4 と図 5 の実施例と比べて減少されている。

【 0 0 2 7 】

50

上記以外は、図 6 と図 7 との関連では、図 4 と図 5 との関連で説明した全ての内容がここでも当てはまる。

【 0 0 2 8 】

図 8 と図 9 は、レール 1 の斜視分解図を示している。

【 0 0 2 9 】

この点において、固定装置 3 の位置決め装置 1 0 は、レール 1 のレールストラット 2 内に押し込み可能なスリーブ部材 1 3 の形態であることが明示されている。位置決め装置 1 0 がレールストラット 2 内に押し込まれると、それは二つの異なる位置 5 と 6 にて固定でき、この点において、その二つの異なる位置 5 と 6 はレールストラット 2 内の凹部 7 と 8 の形態であることも明示されている。これらの凹部 7 と 8 はレールストラット 2 のケーシング 9 内の開口部の形態であり、外部から操作できる。

10

【 0 0 3 0 】

位置決め装置 1 0 の弾性ラッチ突出部 1 2 に適用される圧力によって、それは凹部 7 と 8 から解放されるため、パネル固定装置 3 全体がレールストラット 2 内で移動できる。パネル固定装置 3 の位置決め装置 1 0 はその後に凹部 7 と 8 の一方に再びラッチ留めできる。

【 0 0 3 1 】

クランプ装置 2 0 は、それにダウエルコア 2 6 がスピンドルとして機能するピン 2 4 によって取り付けられる取り付け要素 2 3 を有している。ダウエルコア 2 6 は、ここでは好適にはダウエルスリーブ（合わせ釘状のスリーブ：「dowel sleeve」）の形態である固定要素 2 5 内に提供されている。固定要素 2 5 とダウエルコア 2 6 が取り付け要素 2 3 内のピン 2 4 周囲を旋回するとき、ダウエルコア 2 6 が取り付け要素 2 3 に対して引っ張られることで、固定要素 2 5 がダウエルコア 2 6 によって広げられ、よってパネル固定装置 3 は前方パネルの孔部（ここでは図示せず）内で広がることができる。

20

【 0 0 3 2 】

固定要素 2 5 の前方部での固定は、その他の任意の想定可能な形態でも実行でき、この点における唯一の重要な点は、この構造が前方部におけるレールに良好な保持力を提供することである。

【 0 0 3 3 】

さらにレール 1 は、レールストラット 2 上方で装着される迫台 1 5 も有しており、それは（前方パネル 1 0 7 または前壁部 1 0 8 に対して）前方部 1 0 1 のための迫台として機能する。

30

【 0 0 3 4 】

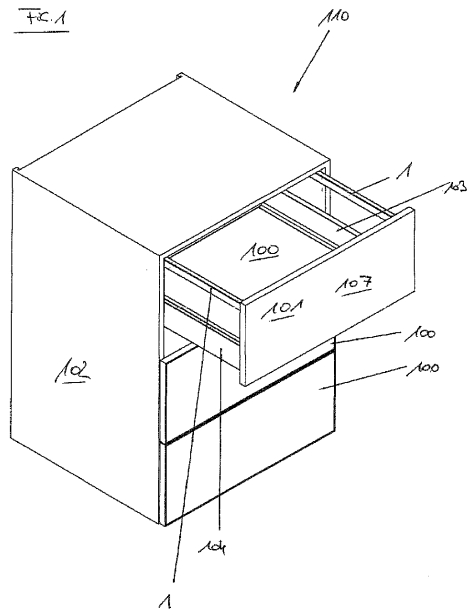
この図では、位置決め装置 1 0 は、レールストラット 2 内に押し込み可能なスリーブ部材 1 3 の形態であることが明示されている。さらに、位置決め装置 1 0 は、その肢部 2 2 が位置決め装置 1 0 内でクランプ装置 2 0 をラッチ留めする取り付け要素 2 3 をその内部に部分的に収容している。

【 0 0 3 5 】

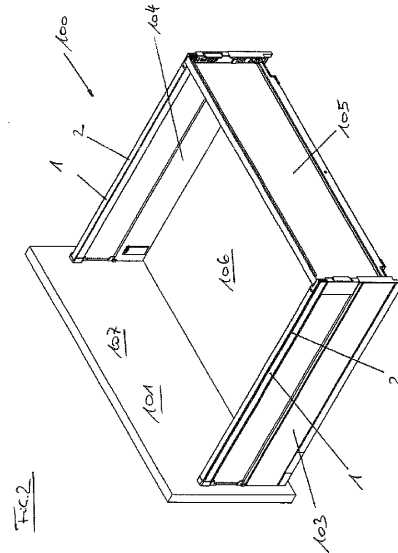
レールストラット 2 が、その内部にパネル固定装置 3 がラッチ留め可能な二つの位置 5 と 6 以外の位置を有することで、異なる長さの複数の引出しに同じレール 1 を装着することも当然に想定できる。

40

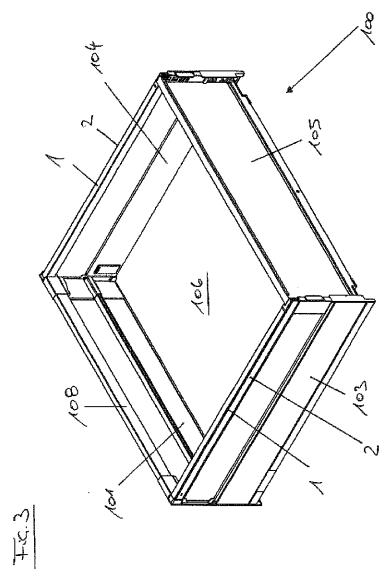
【図 1】



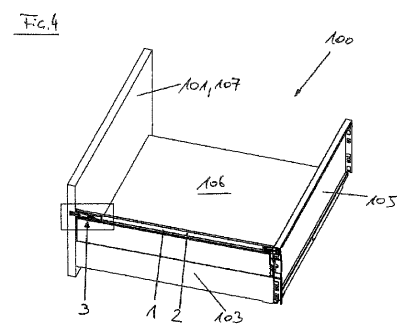
【図 2】



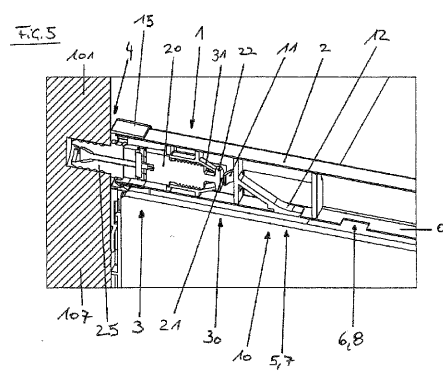
【図 3】



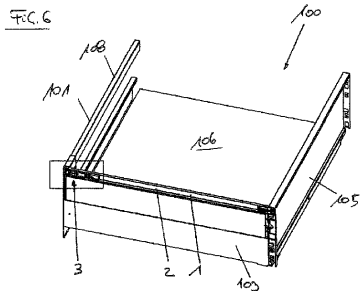
【図 4】



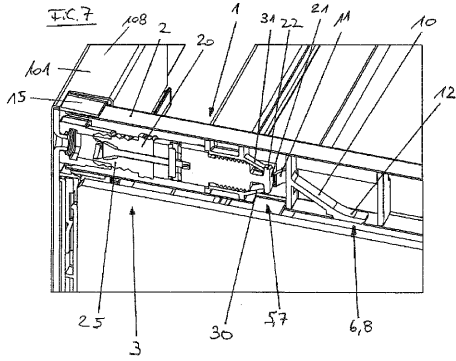
【図 5】



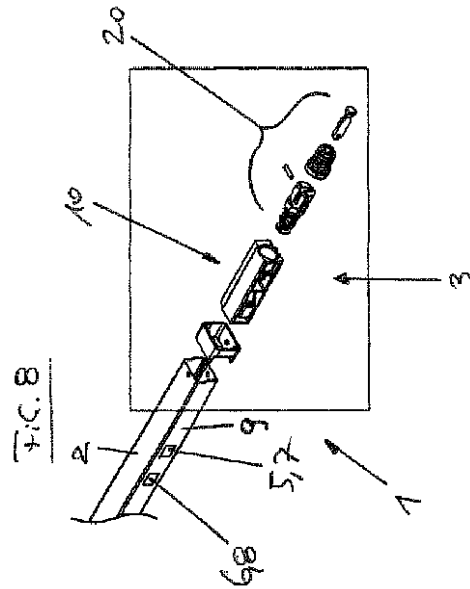
【図 6】



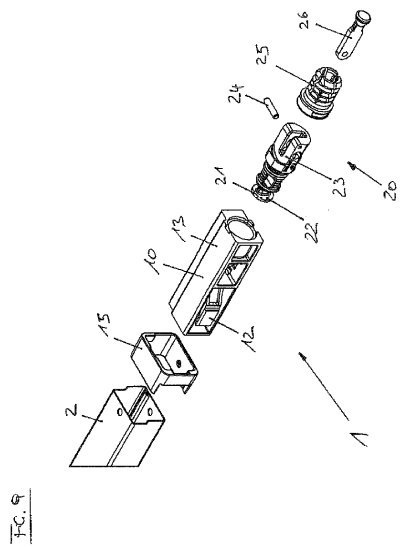
【図 7】



【図 8】



【図 9】



フロントページの続き

(56)参考文献 特表2012-502697(JP,A)

(58)調査した分野(Int.Cl., DB名)

A47B 88/00 - 88/994